

医療連携推進会議 議事録

2026 年 3 月 21 日

開催日：2026 年 3 月 18 日（水）14:00～15:30

場 所：SOMPO ケア目黒 事業所

参加者：西部包括支援センター 主任 野村辰治郎 CM

スマイルナーシング 神林真之介 NS

ヒューマン・ケア 主任 瀧澤淳子 CM

ナイスケア介護センター 伊藤朋春 CM

ソラスト大岡山 白田洋子 CM

自由が丘訪問看護ステーション 岩永妙子 NS

SOMPO ケア目黒 松田司都子（事業所管理者）

SOMPO ケア目黒 大畑裕一（計画作成責任者）

SOMPO ケア目黒 渡邊照子（介護福祉士）

当社から

SOMPO ケア目黒として、特色のある事務所を打ち出していくため、利用者がお元気なうちに将来の医療や介護と一緒に考え自己決定を行っていく ACP を取り入れ、質の高いケアを目指していること。ACP の必要性については、管理者が前の職場での事例を発表説明しています。

また、前回の会議で課題となった事例の『尊厳』について定例会で取り上げ、再度モニタリングしていく中で、声かけ・環境整備を行い“今のまま”から“よりよく生きる”ことに繋がった経緯を報告発表しています。

外部評価にて、定期巡回の周知が足りないと思います。

専門的な視点での外部へのアピールが不足により、実績と評価が繋がってないと感じてます

意見交換

・定期巡回は通常の訪問では足りないとのことで回数確保に利用することがあるが、24 時間繋がっている安心感で利用いただくことで、理解して使っていただけているよう。また、利用者が少ないのは看護との連携や人間的な部分、CM やソーシャルワーカーの理解不足により使いにくいとされていることが考えられるのでは。

・定期巡回の内容を説明する機会を増やし、もっと認知度を広げていきたい。

・ヘルパーと訪問看護との連携をスムーズに行う秘訣はありますか。

ヘルパーが現場で観察（利用者の変化）する中でご本人の訴え（言葉）をよく聞き取り、看護に繋げていくことが大切に思います。

・定期巡回を利用して、（ご家族がトイレで排泄したいという希望が叶い）、とても助かっています。

・クオリティ・オブ・ライフ（その人らしく充実した人生）を考え、定期巡回を取り入れていきたいと考えます。

外部評価としても、見えない部分は評価不能、無回答として判断してしまいます。

定期巡回としてのサービスの依頼が少ないのも、定期巡回の周知不足、今までのイメージもあるのではないかと。居宅としては、超過などの時に打診するが、結局看護の問題もあり繋がらないケースもあるし、検討しない方が多い部分もある

今後の課題

利用者が住み慣れた家で安心して最期まで暮らせるように、利用者と一緒に人生会議（ACP）に取り組み納得した生活を送っていただけるよう、各々にあったプランを柔軟に考えていけるよう体制を整えていきたいと考えます。

定期巡回を見直す機会をえられ、次回に繋がっていかれるものと確信いたしました。

定期巡回の広めるために、明確な視点と特色を持って周知、地域密着を生かした運営を目指して実践、地域活動など行っていきます

以上